

大津町の宝 町民の財産・生命を守る消防団

7月4日大津町消防団操作大会



表紙紹介

岡本家住宅

江戸期の細川藩配下の在郷武士の屋敷。天保十一年（1840）に建築された、在郷御家人の住宅として今に伝えられています。

岡本家は、天保年間（1830～1844）には緒留守居、中小姓格で、典型的知行取在郷御家人。屋敷は、在郷武士の形式ですが、土間や台所に農家としての古い形を残しています。江戸時代、住宅の建築について様々な規制があり、中でも最も重要なのは「建物の梁間が三間梁以下にしなければならない」ことでした。

しかし、この住宅の母屋は、北に開いた「コ」の字形で、北側に並行する座敷棟（西側）と奥部屋棟（東側）が三間梁となっている一方で、南側では、大きな屋根が架けられました。その構造から、次第に「三間梁以

編集後記

口蹄疫被害が広がる中、議会の先進地研修も延期や中止することとなりました。手塩にかけた牛や豚を処分せざるを得なくなつた農家の人たちの心情を思うと、だれしも胸が痛んだのではないのでしょうか。惑星探査機はやぶさに日本中が喝采をあげました。これだけ科学が発達した時代に口蹄疫への対処方法はどうかならないのか。一刻も早く終息することを祈るばかりです。

（荒木）

「下」の規制が守られなくなってきた状況が推測できます。ここには当時、動揺する幕藩体制の中で成長する在地勢力の姿をかいま見ることが出来ます。岡本家住宅は、増改築などもなく創建当時をよく表していると同時に、保存状態も良好な貴重な文化財であり、江戸後期の建築様式の変遷とそれを取巻く社会の変化を考える上での重要な数少ない史料です。屋敷の正門には、四脚門が立ち、家格を物語っています。敷地内には、馬屋を持つ穀物倉と道具倉の二棟があり、家格に合わせた敷地面積が創建時からそのままというのも貴重なことです。

国登録文化財

住所 熊本県菊池郡大津町森265
土地 2,109・23㎡
母屋 約350㎡
付属棟 南の蔵・三階蔵・表門・裏門・馬屋・便所

議会の様子を見て聞いてはいよ
次回は9月中旬予定です。

議会広報編集特別委員会

委員長 荒木 俊彦
副委員長 金田 俊二
委員 吉永 弘則
委員 源川 貞夫
委員 府内 隆博

この議会だよりはリサイクル推進のため再生紙を利用しています。